資料４

ＮＩＴＥの事故情報収集制度におけるライター事故の状況

（独）製品評価技術基盤機構

１．ライターに係る事故

昭和５０年度から平成２０年度にＮＩＴＥが収集した事故情報のうち、ライターが関係した事故は１，３２０件あった。ライターの種類別では以下のとおりである。

表１ライターの種類別分類

着火方式	件数
①電子式	272
②ヤスリ式	511
③その他	53
④不明	484
総計	1320

燃料別	件数
①ガス注入式	33
②ガス使い捨て	776
③オイル	12
④その他	15
⑤不明	484
総計	1320

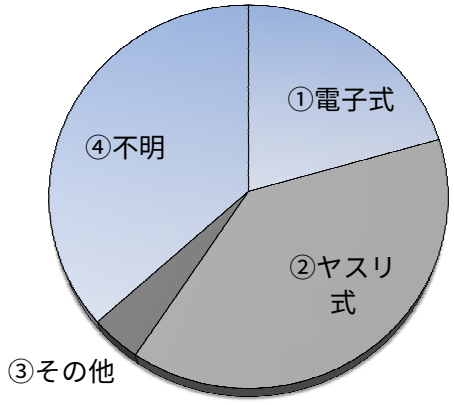

図１　ライターによる事故 [着火方式別]

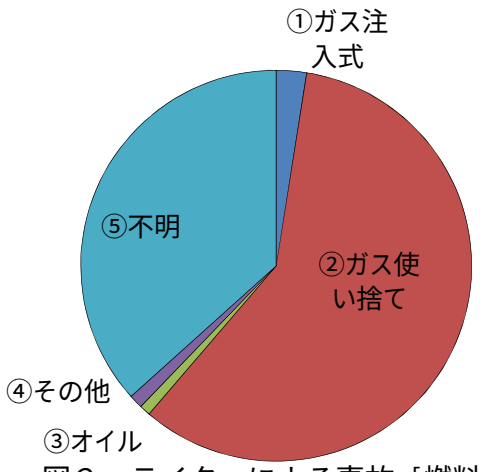

図２　ライターによる事故 [燃料別]

２．原因区分別分類

１，３２０件の事故を事故原因別にみると、Ｇ２（原因不明：２６９件）がトップ、続いてＡ２（製造不良：２１７件）、Ｅ２（不注意：２０９件）、Ａ１（設計不良：１８２件）、Ｅ１（誤使用：１８０件）となっている。

製品に起因する事例としては、炎の高さが基準を超えていたもの、ガス容器の成形不良、消火機構の不良による残火、などがあった。

一方、使い方に起因する例としては、ライターに直射日光があたったもの、車のダッシュボードに放置していたもの、ノズルなどへの異物の混入などであった。

原因区分		件数
A1	設計不良	182
A2	製造不良	217
A3	品質管理不十分	21
A4	表示または取扱説明書の不備	2
B1	設計不良で使い方も事故発生に影響	9
B2	製造不良で使い方も事故発生に影響	5
B3	品質管理不十分で使い方も事故発生に影響	1
B4	表示または取扱説明書の不備で使い方も事故発生に影響	4
C1	経年劣化	12
D1	業者の設置･施工不良	1
D2	業者の修理不良	0
D3	業者による輸送中の取扱いの不備	0
E1	消費者の誤使用	180
E2	消費者の不注意	209
E3	消費者の設置･施工不良	2
E4	消費者の修理不良	
F1	製品には起因しない偶発的事故	110
F2	その他製品に起因しないか、又は使用者の感受性に関係するもの	28
G1	原因不明	269
G2	調査不能	38
G3	製品起因であるが、その原因が不明のもの	1
H1	調査中	27
H2	係争中	2
総　計		1320

３．被害別分類

被害別に分類すると次頁のような状況であった。

拡大被害には、家屋や車両の火災に至るものから衣服をわずかに焦がす程度のものまで幅広く含まれている。

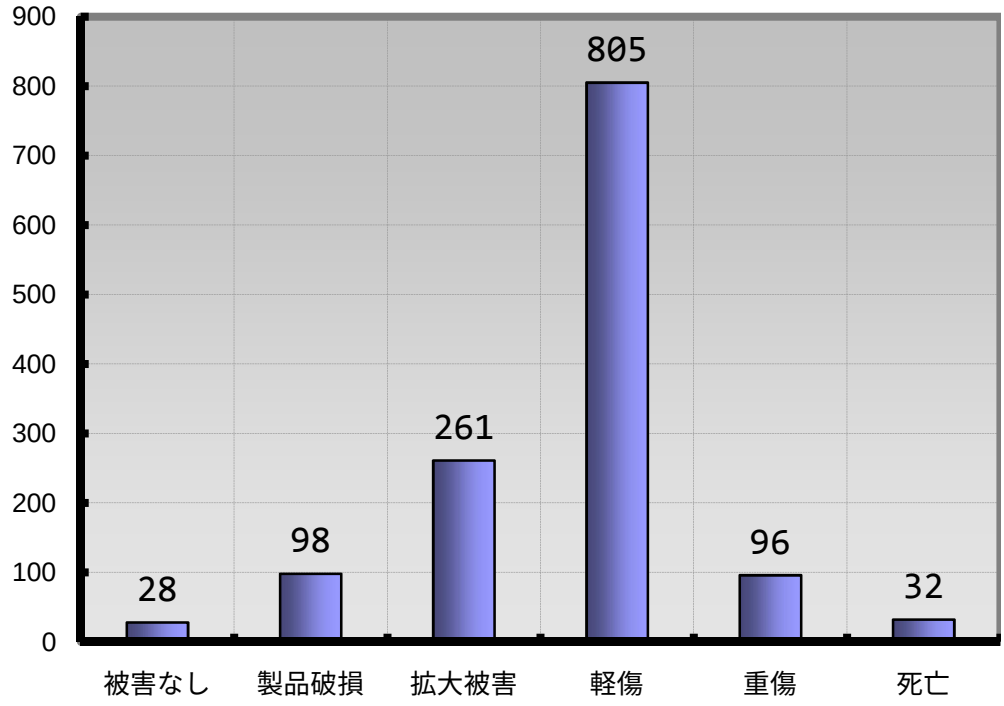

図３　ライター事故の被害別分類

４．発生地（都道府県）別事故件数

ライターに係る事故を発生地（都道府県）別に示したのが以下のグラフである。

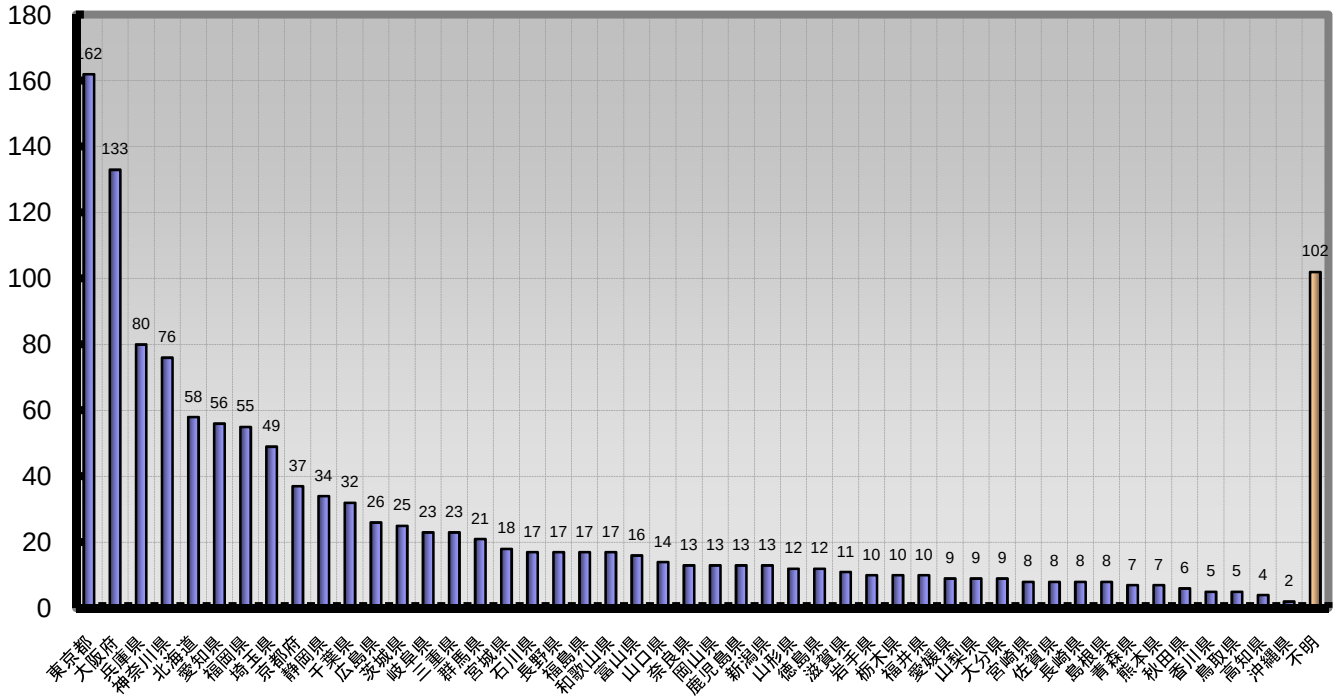

図４　ライター事故の発生地別分類

事故発生地	件数	事故発生地	件数
東京都	162	岡山県	13
大阪府	133	鹿児島県	13
兵庫県	80	新潟県	13
神奈川県	76	山形県	12
北海道	58	徳島県	12
愛知県	56	滋賀県	11
福岡県	55	岩手県	10
埼玉県	49	栃木県	10
京都府	37	福井県	10
静岡県	34	愛媛県	9
千葉県	32	山梨県	9
広島県	26	大分県	9
茨城県	25	宮崎県	8
岐阜県	23	佐賀県	8
三重県	23	長崎県	8
群馬県	21	島根県	8
宮城県	18	青森県	7
石川県	17	熊本県	7
長野県	17	秋田県	6
福島県	17	香川県	5
和歌山県	17	鳥取県	5
富山県	16	高知県	4
山口県	14	沖縄県	2
奈良県	13	不明	102
		総計	1320

人口による都道府県順位

（2009 年 10 月 1 日の推計人口）

1	東京都	25	山口県
2	神奈川県	26	愛媛県
3	大阪府	27	長崎県
4	愛知県	28	滋賀県
5	埼玉県	29	奈良県
6	千葉県	30	沖縄県
7	兵庫県	31	青森県
8	北海道	32	岩手県
9	福岡県	33	大分県
10	静岡県	34	山形県
11	茨城県	35	石川県
12	広島県	36	宮崎県
13	京都府	37	秋田県
14	新潟県	38	富山県
15	宮城県	39	和歌山県
16	長野県	40	香川県
17	岐阜県	41	山梨県
18	福島県	42	佐賀県
19	栃木県	43	福井県
20	群馬県	44	徳島県
21	岡山県	45	高知県
22	三重県	46	島根県
23	熊本県	47	鳥取県
24	鹿児島県		

上記はあくまでも事故が通知された件数であることから、必ずしも人口の分布と比例しない部分もあるが、相対的に人口の多い地域で事故が多く発生していることがわかる。

６．子供の火遊び

ライター事故について子供の火遊びであったもの、１，３２０件中３５件（２．７％）であった。３５件を子供の年齢別に区分すると以下のとおりとなった。

子供の年齢	件数
1	1
2	4
3	4
4	6
5	3
6	3
7	2
9	2
10	1
12	1
小学生	2
中学生	1
不明	4
幼児	1
合計	35

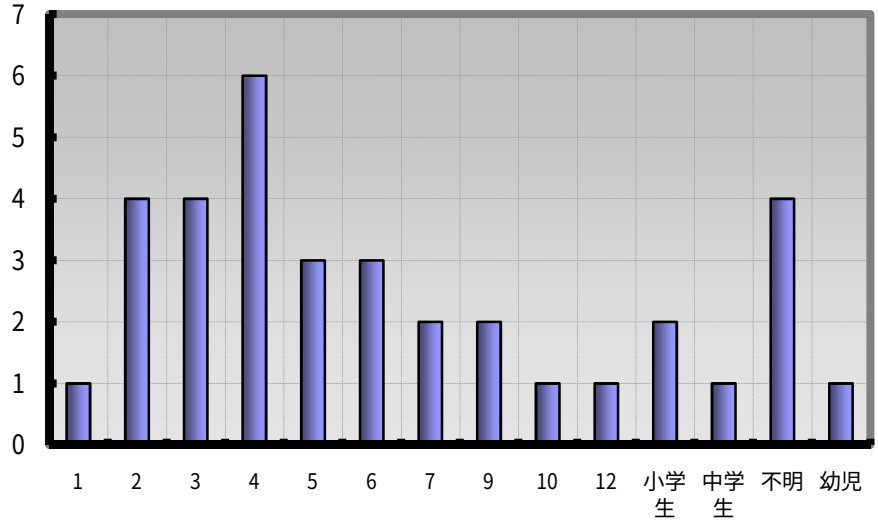

図５　子供の火遊びによるライター事故の年代(年齢)分類

子供が関わった事故については、保護者自らの責任と考え情報が提供されないことが多く、ライターの子供の火遊びについても同様であると想像される。また、子供に関係するライターの事故については、製品起因が疑われるものを中心に情報収集してきたこともあり、件数が少ない状況となっている。